

第 18 回 公認パラスポーツ指導者全国研修会が開催されました

12月9日（土）、10日（日）、公益財団法人日本パラスポーツ協会が主催する『第18回公認パラスポーツ指導者全国研修会』が開催されました。当日は、パラスポーツ指導に関わる全国の関係者の皆さんが多数参加されました。

この研修会は、全国の公認パラスポーツ指導者が一堂に会し、パラスポーツを支えるすべての関係者が様々な情報を得ることで、地域での活動に伴う不安を解消し、今後の活動に対する意欲を高めるとともに、指導者としての資質向上につなげることを目的として開催されるものです。

宮城県障害者総合体育センター施設長の岩佐義明先生が『新しい時代に向けたパラスポーツ ～今、求められるパラスポーツ指導者とは～』をテーマとした基調講演がありました。宮城 MAX やパラリンピック代表チームを率いた体験談や、東日本大震災でのエピソードなど、パラスポーツを支え、パラスポーツに支えられて乗り越えられたことが伝わる講演となりました。

基調講演後に2日間に渡って行われた5つの分科会は、第1分科会 知的障がい・発達障がいがある選手への支援について（濱中一道先生 宮城県立支援学校岩沼高等学園）、第2分科会 肢体不自由者のスポーツ指導法（佐藤敬広先生 東北福祉大学 総合福祉学部）、第3分科会 パラアスリートのためのコンディショニング（荒谷幸次先生 日本パラリンピック委員会 強化本部）、第4分科会 学校体育と地域連携（相澤晴朗先生 宮城県立支援学校岩沼高等学園）、第5分科会 東北ブロックからの情報発信（齋藤友規先生 宮城県障害者スポーツ協会）というラインナップがあり、それぞれの現場における最新の情報が共有され、受講者の皆さんにとっては明日にでも現場で実践できる知識が共有されました。

運営スタッフには本学のOBの方も携わっておられ、本学が会場となった福祉領域のこのような研修会の開催を非常に誇らしく感じておられました。

受講者にとっても有意義な研修会であったと同時に、本学としても地域に開かれた大学としての役割を果たし、社会貢献の一翼を担う貴重な機会となりました。